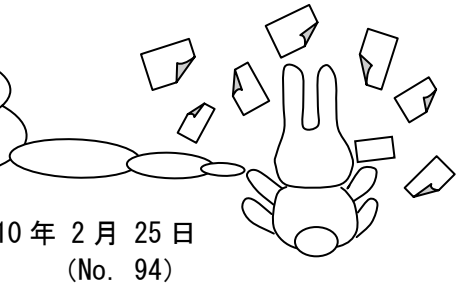
とうけい かわら版

総合企画局情報統計課



平成 10 年 2 月 25 日
(No. 94)

平成８年京都市の合計特殊出生率は１．２７

30 代の上昇により少子化傾向が底打ちか？

合計特殊出生率とは，15 歳から 49 歳までの女性の年齢別出生率を合計したもので，１人の女性が一生の間に生む平均子供数をいいます。

平成８年の京都市の合計特殊出生率は 1.27 人で，昭和 45 年以降最低だった前年より 0.02 ポイントですが上昇しています。また，同様に全国の数値をみますと，平成８年は 1.43 人で前年より 0.01 ポイント上昇しており，京都市はこれを 0.16 ポイント下回っています。

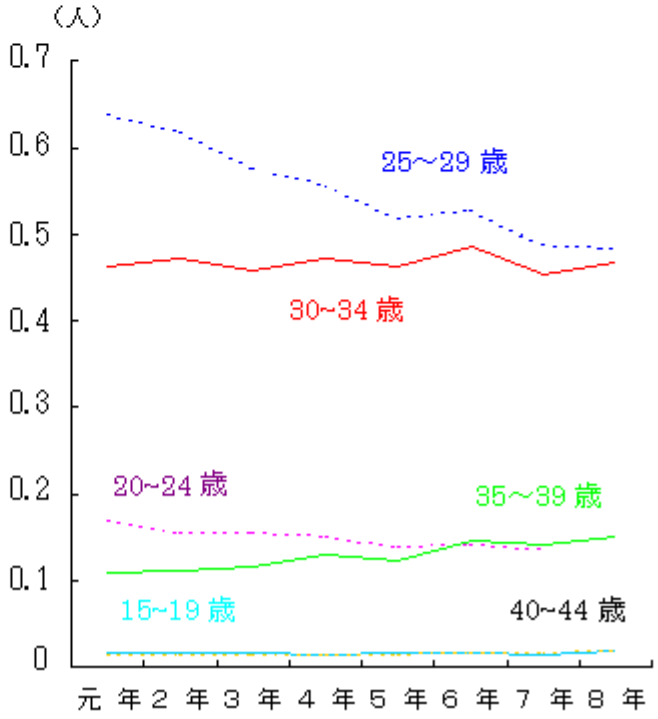
年齢５歳階級別の合計特殊出生率をみますと［図－１］，晩婚化の影響か20～24 歳，25～29 歳の 20 代が低下し，30～34 歳，35～39 歳の 30 代が上昇し，出産の高齢化が見受けられ，特に今年は，20 代の低下を，30 代の上昇が上回ったため，京都市の合計特殊出生率が上昇する結果となっています。

表－１　合計特殊出生率の推移

年　次	全　国	京都市
昭和45年	2.13	1.89
50年	1.91	1.66
55年	1.75	1.54
60年	1.76	1.55
平成元年	1.57	1.41
２年	1.54	1.38
３年	1.53	1.34
４年	1.50	1.34
５年	1.46	1.27
６年	1.50	1.33
７年	1.42	1.25
８年	1.43	1.27

資料：厚生省，京都市情報統計課

図－１　年齢５歳階級別合計特殊出生率（15～44 歳）



※15～19 歳，40～44 歳は，ほぼ同率のため重なっています。